

今日のトピック 最近の指標から見るブラジル経済(2014年12月)

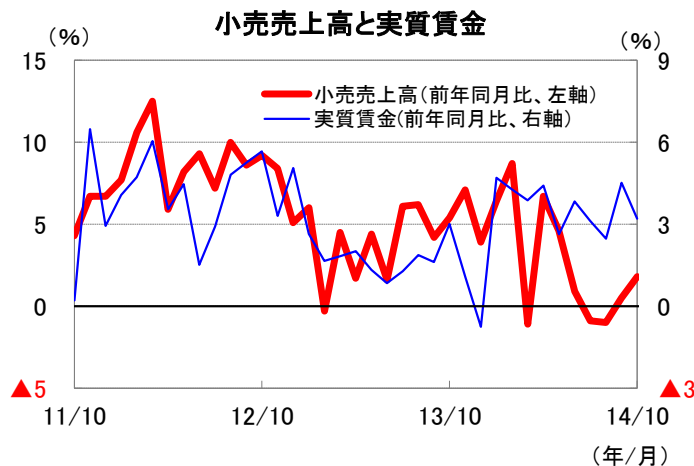
物価抑制と財政再建により持続的成長へ

ポイント1 消費が底堅く推移

輸出はレアル安効果などで持ち直しへ

■10月の小売売上高は、前年同月比+1.8%と、2カ月連続のプラスとなりました。実質賃金が概ね安定して伸びていることなどから、消費は今後も底堅く推移し、景気を下支えしそうです。

■10月の鉱工業生産指数は前年同月比▲3.6%と、3月以降8カ月連続のマイナスになりました。また、11月の輸出は同▲25.0%と大幅に減少しました。ただし、ブラジル中央銀行(以下、中銀)は、世界経済の拡大、レアル安による輸出の持ち直しなどが、今後の景気回復を支えると見えています。



(注) データは2011年10月～2014年10月。

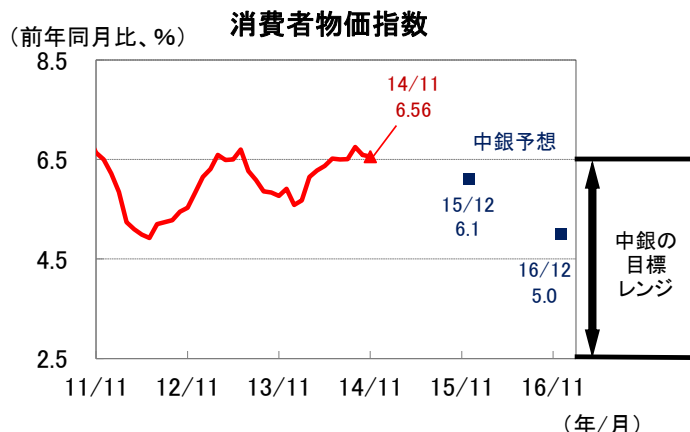
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価高が続く見込み

2会合連続の利上げ

■消費者物価指数は、食品価格上昇などが影響し、11月中銀の目標(年+2.5%～+6.5%)の上限を上回っています。

■中銀は12月3日、政策金利を0.50%引き上げ、11.75%とすることを発表しました。利上げは10月の会合から2会合連続で、上げ幅は前回の0.25%から拡大されました。利上げ幅の拡大は、物価高を抑制する中銀の意向がより強く反映されたものと考えられます。



(注) データは2011年11月～2014年11月。

ブラジル中央銀行の予想は、12月23日に同行発表のインフレレポートより。

(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 物価抑制や財政再建を通じ、中長期的な景気見通しは改善へ

■中銀は、公共料金引き上げなどにより物価上昇率が2015年も高止まりすると見えています。中銀は、2016年には目標レンジの中心値(前年比+4.5%)に近づくよう、積極的に対応する方針です。中銀は、次回会合(2015年1月20日～21日)以降も利上げを続けると見込まれます。

■ルセフ大統領は2015年1月から2期目を迎えるにあたり、市場で評価の高いレビ氏を財務相に起用し、財政再建にも積極的に取り組む姿勢です。こうした政策は短期的に景気を下押しする可能性がありますが、財政への信任や中長期的な景気見通しの改善につながると見られ、レアルや株式市場の支援材料になりそうです。

ここも チェック!

2014年12月04日 ブラジルの金融政策(2014年12月)

2014年12月03日 第2次ルセフ政権の「財政再建」(ブラジル)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。